

広報芝浦

SPRING 2025.05

INSTITUTE OF TECHNOLOGY

SHIBAURA

特集 | 創立 100 周年に向けた、

芝浦工業大学への教育支援

演奏：東京フィルハーモニー交響楽団

広報芝浦 2025.5.30 Vol.55

学校法人芝浦工業大学 入試・広報部 企画広報課
〒135-8548 東京都江東区豊洲 3-7-5 TEL : 03-5889-7070 E-mail : koho@ow.shibaura-it.ac.jp



芝浦工業大学

SHIBAURA INSTITUTE OF TECHNOLOGY
Established 1927
Tokyo

Shibaura Institute of Technology

100th Anniversary

100周年記念事業
ご寄付のお願い



X
芝浦工業大学
公式アカウント



Instagram
芝浦工業大学
公式アカウント



YouTube
芝浦工業大学
公式アカウント



TikTok
芝浦工業大学
公式アカウント

広報芝浦

SPRING 2025.05

INDEX



04 [特集1] 創立100周年に向けた、芝浦工業大学への教育支援

08 [特集2] 学位記授与式・入学式

12 創立100周年記念10回連載 第1回 創立者有元史郎 History

14 SIT Academic Column 安全かつ効率的な自動運転技術を実現するハイパーデジタルツインの可能性 工学部/社会情報ネットワークデザイン研究室 新熊 亮一 教授

18 しばうら人 卒業生の「今」プロジェクトマネージャーとしてユーザー起点のサービスを社会に提供したい 株式会社NTTドコモ 荒山 莉穂さん デザイン工学部 デザイン工学科 2017年卒業

20 ACTIVE STUDENTS! 活躍する芝浦工大の学生たち Morning Life 大学院理工学研究科 システム理工学専攻 1年 安永圭吾さん、永田亮太郎さん、佐藤怜央さん 駅伝部 システム理工学部 環境システム学科 4年 横尾皓さん、内山壽頼さん

22 SITニュース

(表紙) 2025年度入学式でのミニコンサート

毎年恒例となった入学式での東京フィルハーモニー交響楽団によるコンサートが今年も開催されました。本年度の入学式の詳細は、10・11ページをご覧ください。

2025 SPRING



創立100周年に向けた、芝浦工業大学への教育支援



有元 美佐子・ヘンソン
(Mikko Henson)

有元史郎の三女、有元美佐子は米国に渡り、英語教師のベン・ハゴット氏と結婚して日米友好のために尽力した。また、生涯にわたり、芝浦工業大学に対して多大なる支援を行った。2007年に開催された創立80周年記念式典のスピーチでは、有元史郎の人生を語り、聴衆の胸に深く刻まれた。

有元美佐子・ヘンソン氏（以下、ヘンソン氏）がご逝去され、カリフォルニアのご自宅の売却が完了しました。故人のご意向によって不動産売却収益の一部と生命保険金の全額がカリフォルニア大学アーバイン校（以下、UCI）の基金に組み込まれ、学校法人芝浦工業大学が運営する学校の学生・生徒や教職員がUCIに留学する際の学費に充当されています。ヘンソン氏が遺されたレガシーを通じて、創立100周年に向けた教育支援について特集します。

有元記念留学支援制度の設立

ヘンソン氏は、生前から本学の創立者であり父である有元史郎を偲び、2007年の創立80周年を機に「有元記念留学支援制度」を設立しました。この制度は、UCIとヘンソン氏との間で創設した基金に関する合意書に基づいて、学校法人芝浦工業大学が運営する学校の学生・生徒や教職員がUCIに留学する際にその学費の全額を基金から支援することを目的としています。この制度を利用して、これまでに教職員7人と芝浦工業大学附属高等学校の生徒20人を含む多くの学生・生徒がUCIへの留学を経験してきました。

稲増 美佳子氏（ヘンソン氏姪）メッセージ

有元史郎の末娘であるMikko Hensonは私の叔母です。叔母は第二次世界大戦で傷ついた日米双方の国民に対して「アメリカ人には日本のよいところ、日本人にはアメリカのすばらしいところ、を知ってほしい」といつも話していました。60代になって「トラは死んでも皮を残す」という想いで、UCIへの寄付を通して有元基金を設立いたしました。ぜひ、叔母が人生をかけた皆様への“贈り物”を大切に生かしていただければ、と心から願っております。



留学経験者インタビュー

1

〈教職員〉学事本部大学企画課
古川 祐輔さん

2 011年10月から半年間、UCIに留学しました。本制度の資金提供者であるヘンソン氏、そして本制度を創設してくださった大学の皆様に感謝申し上げます。私がこの制度を知ったのは、同じ部署の先輩からの紹介でした。当時、入職して2年ほどの私には海外経験がなく、ためらいがありました。社会人にとってこのような挑戦の機会をいただけることは稀（まれ）であり、先輩や上司の応援もいただけたことから、チャレンジを決めました。

留学期間は半年間で、韓国、台湾、スペイン出身のルームメイトと共同生活をしながら、10週間のプログラムを2サイクル受講しました。最初のサイクルでは語学研修で英語力を磨きました。次のサイクルでは、専門性を伴うコースに挑戦し、ビジネス・アドミニストレーションコースで、経営、財務、プロジェクトマネジメントなどの基本概念を学びました。

また、両サイクル中に並行して語学研修センターでのインターシップを行い、留学生のケアやイベント運営のサポートを行いました。

語学力や専門知識の向上に加え、多様性への理解が大きな学びとなりました。異なる価値観を持つ人々が集まる環境では、見の対立やトラブルが発生することもあります。しかし、成果を出すためには、共通のゴールに向かって協働することが不可欠です。留学中はそのような鍛錬の機会が豊富にあり、学びになりました。また、UCIには優秀な人材が集まっており、彼らの志の高さに触れることで、自身の成長意欲も高まりました。

帰国後は国際性を生かした業務を担当する機会が増え、2015年からは国際部で海外プログラムの企画・運営、協定校開拓などに約6年間

従事しました。その後は学部の改組やDX推進など、プロジェクト型の業務に従事する機会が増えました。英語を使用する機会は減りましたが、留学中に学んだプロジェクトマネジメントや協業の重要性への理解が大変役立っています。

また、留学中に学んだ英語力や経営・会計関連の知識を体系化するため、米国公認会計士試験に挑戦し、2014年に合格することができました。この過程で培った思考力や分析力も、日々の業務に生かされています。

このような貴重な機会を与えてくださったヘンソン氏、学校法人の皆様改めて感謝申し上げます。今後は自身のことのみならず後輩の成長支援もできるよう努めてまいります。



ヘンソン氏、併設校生徒と



UCIでヘンソン氏のサプライズ誕生パーティー

大学へ経済的 ご支援のお願い

ご寄付について



WEBサイトから
詳細をご確認
いただけます

前述のように大学へのご支援は
ご指定いただいた使途に従って、
確実に大学の発展のために活用さ
れています。また、本学は特定公
益増進法人であり、本学への寄付
は**税制上の優遇措置**があります。
さらに、WEBからお申し込みさ
れた場合は、寄付金額に応じて、
“芝浦ギフト”を返礼品としてお
贈りします。この“芝浦ギフト”
も本学にゆかりのある方々にご協
力いただいております。寄付の詳
細について左記の二次元コードよ
りご確認ください。

遺贈と顕彰制度について

遺贈とは遺言書を作成し、財産
を特定の人や団体に贈る（寄付す
る）ことをいい、この遺言による
制度で、財産の一部またはすべて
の受取人に芝浦工業大学を指定す
ることができます。本学への遺贈
によりご寄付いただいた財産は非
課税財産になり、**相続税を軽減**す
ることができます。また、各種寄
付の累計額が一定金額を超えた
方々に**名誉称号**をお送りするとと
もにご芳名を寄付者銘板（豊洲
キャンパス本部棟）に刻み、未永
く顕彰させていただきます。皆様
からの温かいご支援をお願い申し
上げます。

顕彰制度	寄付金額		礼遇
	個人	法人	
名誉賛助員	100万円以上	1,000万円以上	<ul style="list-style-type: none"> 各種銘板への氏名記載 称号記の贈呈 施設などへの命名権[*] など
特別名誉賛助員	300万円以上	5,000万円以上	
荣誉賛助員	1,000万円以上		
特別荣誉賛助員	5,000万円以上		

※一括寄付金額1,000万円以上の個人が対象



芝浦工業大学附属高等学校では芝浦工大への併設校推薦入学者
選抜（早期）合格者を対象に約3か月間の留学制度を提供しています。

芝浦工業大学 工学部 電気電子工学課程1年
(取材時：芝浦工業大学附属高等学校3年)

古賀 陸斗さん



留学経験者
インタビュー

2

英語を話さざるを得ない環境での学びと将来の
目標のために留学を決意しました。

留学先では主に大学の授業に参加し、午前に授業
を受けて午後は課題をこなすという毎日でしたが、
授業以外にも交流会に参加したり、週末は大学が企
画したアクティビティに参加したりしました。ショッ
ピングに行ったり、海に行ったり、遊園地に行っ
りとさまざまな場所に足を運ぶことができました。

この留学では、国籍の違うさまざまな人との交流
を通じてコミュニケーション能力が少しだけ向上し
たと感じています。会う人は自分よりも年上の方ばかりで毎
回緊張しましたが、そういった経験を何度もしたことでコミュニ
ケーション能力に少しだけ自信ができました。同時に英語力も
少しだけ上がったと感じます。当初は相手の話していることを
理解するので精一杯だったのが、帰国する頃には何とか生活で
きるレベルにはなっていたと思います。

また、異文化交流を通じて自分の視野をかなり広げられたと
感じています。異なる文化や価値観を持つクラスメイトと共に
過ごした中で、偏見をなくし、尊重することを学びました。

大学では中学受験の頃から興味を持っていた回路を軸に課程
制を生かして幅広い分野を学びたいと考えています。そして、
大学には留学生がたくさんいるので、多くの留学生と交流して、
英語力に磨きをかけ、将来は自動車会社で、国際
的に活躍できる人材にな
りたいです。



芝浦工業大学 工学部 情報・通信工学課程1年
(取材時：芝浦工業大学附属高等学校3年)

平本 聡太さん



留学経験者
インタビュー

3

高校2年間で3カ国
の海外研修に参加
しました。それぞれ充実し
ていましたが、いずれも
「期間と人数」に物足りな
さを感じました。「3か月・参加者2人・コーディネートな
し」の環境はまさに自分にぴったりと考え、能動的な海外経験
を求めて今回のプログラムに参加しました。

今回の留学での一番の収穫は、もとの自分だったらしないこ
とをしてみたら、大きな成長や大切な経験につながることを学
べたことです。些細なことでは留学中に昼食を自炊するようにな
り、それが意外に楽しく帰国してからも料理をするようにな
りました。毛嫌いしていたものが意外と好きだったことに気付
いた体験でした。そして、今回の一番の挑戦は課外活動でバド
ミントンクラブに入部できたことです。最初の練習体験に参加
するにあたり、練習時間の3時間前に体育館の下見に訪れたと
ころ、すでに練習している方がおり、勇気を出して話しかけて
みました。いつもの自分だったら、何かと言い訳を
つけてどこかで時間をつぶしていたと思います。そ
の結果、練習時間まで一緒にプレーすることができ、
一気に部活に溶け込むことができました上、その後もさ
まざまなところと一緒に遊びに行ったり食べに行っ
たり交流を深めることができました。この勇気を出
した行動が今回の留学のMVPだったと思います。

今回の経験を通じて、大学でも興味の有無に関わ
らずに新しいことに挑戦していきたいです。
将来は、宇宙分野で世界中の人々と協力して研究
をしていきたいと考えています。



学位記授与式・入学式

2024年度

芝浦工業大学学位記授与式

3月17日、学位記授与式が東京ガーデンシアターで挙行政され、学部・大学院を合わせて2587人が新たな門出を迎えました。式典では、各学科・専攻の総代が壇上に入り、卒業生を代表して学位記を受け取りました。大学院理工学研究科社会基盤学専攻修了の野口優理香さんおよびデザイン工学部デザイン工学科卒業の砂子咲季さんによる学生代表挨拶が行われたほか、「創立者有元史郎記念賞」や「学長賞（グローバル）」など、在学中に顕著な活躍をした学生への表彰も行われました。

山田純学長による式辞では、想像を絶するスピードで進化するAIとそれに応じて激変する社会を迎えるにあたり、「変化を拒むのではなく、それを受け入れ、適応することが、これからの時代を生き抜くために不可欠」と語り、「AIが進化しても、知能だけでは物理世界のものづくりは完結しません。それを実際に形にし、社会で活用できるものへと昇華させるのが技術者の役割です。皆さんは芝浦工業大学で学び、技術者としての道を歩み始めます。AIと協働しながら、それぞれの分野の進化を促し、新たな価値を生み出していただく」と旅立つ卒業生たちを激励しました。



鈴木健夫理事長による祝辞では、「経営の神様」と言われた松下幸之助の「優れた経営者の特徴は才能や能力ではなく、謙虚さと感謝の心」という考え方に触れ、「この芝浦工業大学で学び、巣立っていく皆さんには謙虚さと感謝の気持ちを持った技術者として、これからの日本、また世界をより良いものにしていただきたいと思います」と述べ、さらに現状維持は後退という思いのもと、「既成概念や前例にとらわれることなく、常に新しいステージを切り開こうとするチャレンジ精神と行動力を持っていただき、社会での成功を掴み取ってほしいと思います。芝浦工業大学の卒業生は行動力がありチャレンジ精神に溢れている、人間性も素晴らしいと言われることを、私は同じ卒業生の先輩として心より願っています」とエールの言葉で締めくくりました。

式典終了後、恩師と共に大学時代を過ごした友人たちと記念撮影する卒業生の姿が多く見られました。別れを惜しみつつ、晴やかな笑顔でそれぞれの道に進む卒業生たちの、今後の活躍が期待されます。

※AI（人工知能）…人間の知能を超越した知的システムを持つAIシステム

2024年度卒業生数・修了者数(2024年9月卒業含む)

芝浦工業大学			
学部	工学部	954人	
	システム理工学部	476人	
	デザイン工学部	158人	
大学院	建築学部	240人	
	修士課程	804人	
理工学研究科	博士(後期)課程	16人	
合計		2,648人	

芝浦工業大学附属中学高等学校
中学校:158人
高等学校:221人



芝浦工業大学柏中学高等学校
中学校:193人
高等学校:321人



卒業生の声

学び、挑戦し、仲間と歩んだ日々を振り返ってもらいました。喜びも苦労も、すべてがかけがえのない経験となり、卒業生たちの未来へとつながっています。

自分の伸び代を誰よりも信じて



デザイン工学部デザイン工学科卒業
株式会社サイバーエージェント入社
小林 ゆにさん

この4年間「CXOとして家庭教師サービスを立ち上げる」、「卒業実行委員の代表を務める」など、思いつく限りの挑戦に飛び込みました。特に印象に残っているのは、東京

大学と博報堂が主催するブランドデザインコンテストでの経験です。ハッカソン[※]など学外の大会にデザイナーとして出場するうちに、優秀な人と出会い、自分の未熟さを痛感する環境に楽しさを感じるようになった私は、伸ばしたいスキルとも重なったこのコンテストへの挑戦を決めました。「遊びとは何か」という問いについて、他大学のメンバーとともに3か月間手も足も動かし続け、審査のたびに案を一から練り直すなど執着ともいえる姿勢で臨んだ結果、優勝を勝ち取ることができました。

私はもともと自信があるタイプではありませんが、その自分分の伸び代を誰よりも信じています。これか

らも「妥協しないこと」と「ネガティブなポジティブさ」を大切にしていきたいです。失敗は怖いですが、「自分はこのみちまだまだだから痛くない」という気持ちで経験を積み重ね、唯一無二のデザイナーになり、いずれは世界を獲るサービスを生み出します！

※短期間でアイデアを形にする開発イベント

在学生へのメッセージ

学内でも、外部でも、あえて自分の延長線上の何歩も先を行く凄い人に会ってください。もし熱烈に憧れることができたなら、まだまだ先へ進める証拠です。

感謝している人

ある先輩の奮闘する姿に何度も背中を押されました。目標として追いかけることで自分も前に進むことができ、困ったときには優しく答えをくれた先輩、そして、どんなときも応援してくれた両親に感謝しています。

世界で活躍できる人材に



大学院理工学研究科 国際理工学専攻 修了
三菱重工株式会社入社
光澤 賢一さん

幼い頃から自然が好きで環境問題に関心があった私は、化学が好きだったこともあり、大学では気象問題の解決や自然保護に貢献できる、二酸化炭素を分離する膜の研究・開発に力を入れて取り組みました。

実験で思うように結果が出ない時期が長く続いた時は苦労しましたが、今思えば論文に掲載されているような結果を学生がすぐに出せるほうが不自然です。当初は分からず、自分を責めることもあったものの、先輩や同期のおかげで考え方を見直し、失敗から学びながら徐々に研究を進められるようになりました。上手くいかない原因は単純でないことが多く、なぜその結果になったのか論理的に考える力や、限られた時間の中での課題解決力が大きく養われたと思います。

また、在学中にはAGHクラック大学とのDDプログラム[※]にも取り組み、海外の先生方との研究や友人との交流を通して、新しいことに挑戦する勇気を得、コミュニケーション能力を高めることができました。将来は、身につけた専門知識やこれらの経験を生かし、日本だけでなく海外でも活躍できる人材に成長したいと考えています。

※ポーランドにある協定校・AGHクラック大学とのダブルディグリープログラム

在学生へのメッセージ

よく「やらぬ後悔よりやる後悔」と言いますが、実際に行動すれば必ず何かの学びがあるので、やって後悔することはあまりないと思います。もし何かをしようとして迷っているのなら、どんどん挑戦してほしいです。

感謝している人

存分に研究を進められたのは、不規則な生活を理解して支えてくれた家族のおかげです。親身にご指導いただいた先生、励ましてくれた研究室の皆、そして家族に感謝しています。

学位記授与式・入学式

2025年度

芝浦工業大学入学式

4月2日、2025年度芝浦工業大学入学式が東京国際フォーラムで挙行されました。学部・大学院を合わせて3097人の新入生が新しい生活をスタートさせました。

山田純学長による式辞では「大学生活は、『挑戦と経験を積む場』として最適な環境であるとした上で、大学生活の4年間を研究やプロジェクト活動、インターンシップ、起業など、自分の興味のあることに積極的に取り組むことのできるチャレンジの機会としてほしいと述べました。特に、異なる価値観を持つ人々と協働する経験を積むことのできる『海外留学』とコミュニケーション力やチームワーク、リーダーシップを学ぶことができる『課外活動』を新入生に勧めました。さらに、『何かに挑戦する上で最も大切なのは、『失敗を恐れないこと』です。失敗を避けてばかりでは、新しい発見も成長もありません。大切なのは、失敗したときに何を学び、次にどう生かすかです。私自身は、成功よりも失敗から学ぶことが多いと考えています。迷っているのであれば、一歩踏み出してください。新たな可能性が開かれると思います」と新入生の新たな挑戦を応援しました。

鈴見健夫理事長による祝辞では、「大学生活における努力が、また成しえた成長が、まさに自分自身の将来を左右するのだということに強く意識する必要がある」とした上で、「1日1日の努力を惜しまず、先生方の教えを一身に受け止めて、強い意志を持って精進していくことが皆さんの成功につながる唯一の道」とあると説きました。また、大学生活、そして社会人になってからも一番大切なこととして「謙虚さと感謝の気持ちを持つこと」を挙げ、「皆さんが居るのは全くご両親、ご家族のおかげによるものであることを自覚し、感謝の気持ちを忘れずに、躍動感を持って学生生活を送ってください」と新入生を激励しました。



続いて、磐田朋子副学長による芝浦工業大学の「グローバルおよびダイバーシティへの取り組み」について説明があり、新入生は大学の取り組みに熱心に耳を傾けていました。講演内では大学公式マスコットキャラクター「テクスバくん」も登場し、新入生にエールを送りました。芝浦工業大学校友会 Presents 東京フィルハーモニー交響楽団コンサート[®]では、「ハリー・ポッター」よりヘドウィグのテーマ、「E・T」よりフライングテーマ、歌劇「こうもり」より序曲、オルロフスキーのアリア、シャンパンの歌などの演奏があり、新入生の新たな門出に花を添えました。

3年間の高校生活を終え、新たな環境での第一歩を踏み出した新入生たち。2人の新入生にこれまでを振り返ってもらい、大学生活への期待や希望を語ってもらいました。 新入生の声

デジタルの魅力に導かれた未来への決断



工学部 情報・通信工学課程
情報工学コース 入学
飯島 彩陽さん

高校1年生の時により詳しく知っていたと思った科目に理系科目が多かったこともあったので理系を選択しました。初めは決断に不安もありましたが、今となっては理系にしてよかったと思います。

高校生活では芝浦工業大学との高連携の一環で行われた先取り教育制度を活用し、大学での授業や研究に参加しました。大学生と学ぶ中で、新しい環境でも積極的に学ぶ姿勢の大切さを実感しました。また、大学生の研究姿勢に刺激を受け、大学に進むにあたり自分の今後の学び方を考える機会になりました。

大学で何を学ぶかについて思いを巡らす中で、幼い頃からタブレット端末の利用やゲームが好きであったこと、パソコンについてサポートセンターに電話した際に相談しやすい雰囲気を持った女性の方が知識を持って問題を解決していく姿が非常に良かった

大学生活で楽しみなこと

新たなことをたくさん学べることはもちろん、実際の仕事や社会とのつながりを意識した授業から柔軟な思考やチームでの協力の重要性も学べるので、将来に向けて多くのスキルを高めることができるのが楽しみです。
また、部活動経験を生かすこと、新しいことに挑戦することの両方を考えながら、さまざまなサークルを見学して自分に合った活動を見つけることで、勉強以外にも充実した大学生活を送りたいです。

よく映ったことや高校の授業でのプログラミングが興味深かったことから情報工学を学びたいと思い情報工学コースへの進学を決めました。
このような実体験から、将来は誰もが安心して情報機器を使う世の中をつくることに貢献したいと考えています。大学では、社会が求めるものを追求できるようにするために実践的な学びを積みみたいです。

建築士への未来を築く第一歩



システム理工学部 環境システム学科 入学
石川 結菜さん

建築に興味をもったきっかけは、小学校低学年の時に見たためざましテレビの「イノ調[※]」というコーナーでした。さまざまな建造物を巡って魅力を伝えるコーナーを、当時の自分が食い入るように観ていたことを鮮明に覚えています。その後、中学の家庭科の授業で、「自分の理想の家」をテーマに大きな模造紙に図面を描いたことも建築を学びたいと思うきっかけの一つになりました。とにかく数学が好きだったので理系を選択し、特に建築を学びたいと思うようになりました。

高校の授業の一環で芝浦工業大学のそれぞれの学科がどんな取り組みをしているのかを早いうちから知ることができたので、進路を意識し始めたのは高校1年生の夏あたりでした。私が環境システム学科に進学しようと決めた理由は二つあります。
一つは環境システム学科では、建築と環境を横断的に学べるということ

大学生活で楽しみなこと

建築について本格的に学べるようになることがとても楽しみです。小中高では学ぶ機会があまりありませんでしたし、書籍を借りても簡単なものでしか理解できなかったため、先生の講義を聞いてしっかりと理解を深めたいと思っています。

す。建築だけでなく、建物を取り囲む環境についても興味を持っているため魅力的でした。
もう一つは他学科との交流が多くなることです。システム理工学部では他学科と交流できる授業があるので、他学科との交流でより多角的に物事を捉えられるようにしたいと思っています。
将来は建築士の資格を取り、自分の家を設計することが目標です。また、自分の家のみならず、まちづくりに携わりたいと思っています。
※日常の疑問をとことん調べるためざましテレビ内のコーナー

2025年度入学者数

芝浦工業大学		
学部	工学部	1,132人
	システム理工学部	494人
	デザイン工学部	182人
	建築学部	247人
大学院 理工学研究科	修士課程	899人
	博士(後期)課程	26人
合計		2,980人

芝浦工業大学附属中学高等学校
中学校:168人
高等学校:220人



芝浦工業大学柏中学高等学校
中学校:186人
高等学校:312人



創立者 有元史郎 History

1896 6月25日

広島県尾道市土堂町に誕生。

1897 7月

父死去、親戚のもとに引き取られる。

1903 4月

尾道尋常小学校入学。

1911 2月

同高等科を卒業直前に退学。
以降、大阪などで商店に
勤め、苦学を重ねる。

1919 7月

第七高等学校理科甲類入学。

1922 4月

東京帝国大学工学部機械工学科入学。

1925 3月

東京帝国大学工学部機械工学科卒業。
三菱商事への入社を取りやめ東京帝国大経済
学部3年に学士入学。
この年、北村芳子と結婚。
この後、東京帝大法学部、日本大学商業学科、
文学科と続いて修了し、5つの学士号を得る。

1926 4月

大阪商工学校創立（大阪市
北区桜の宮町）するが、
友人に譲る。

1927 7月6日

東京高等工商学校設立認可。

1937 8月

岡山県津山市長に推されて就任。

1938 5月30日

事故により死去。

創立 100 周年記念連載 1/10

2027年11月に開催する創立100周年記念式典まで
本号から10回の「創立100周年記念連載」を掲載し
ます。第1回は、創立者である有元史郎の生涯を紹介
します。

100th
芝浦工業大学
100th ANNIVERSARY
Established 1927

2027年 創立100周年に向けて



有元史郎（1918年）

芝浦工業大学は、100周年を迎える2027年に、アジア工科大学のトップ10に入ると
いう目標を設定しました。理工学の可能性を追求し続ける本学では、100周年は通
過点と捉えています。「常に前進する文化の醸成」をモットーに教員と職員と学生が
協働で前進していくために、下記の周年ロゴマークとスローガンを設定いたしました。

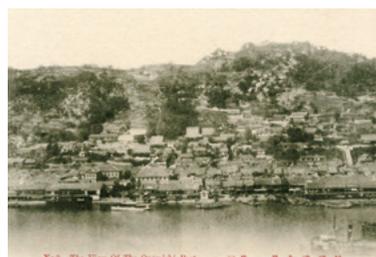


先進的な本学の教育をイメージしたスタイリッシュな
書体のロゴマーク。輝く金色は、理工学教育のトップ
クラスを担っていくことへの誇りを表しています。

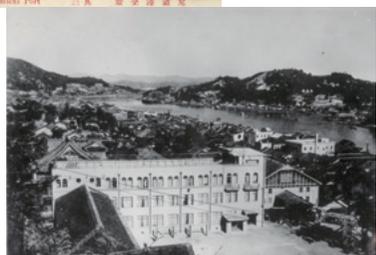
世界に学び、世界に貢献する

100周年で満足するのではなく、学びに対するハン
グリー精神を忘れずに、世界を変えるために
貢献し続けていく姿勢を宣言しています。
未来を切り開いていく、希望を感じさ
せるメッセージです。

100周年サイトはこちら



尾道港



土堂小学校



第七高等学校



Profile 有元 史郎

有元史郎は1896年、広島県尾道市に生まれた。幼い頃から向学心が強かった彼は14歳で家を
飛び出して大阪で夜学に通い、鹿児島第七高等学校を経て、東京帝国大学工学部に入学。卒
業後は決まっていた三菱商事（株）への就職を取りやめ、東京帝国大学経済学部、法学部、日
本大学商業学科、文学科に学び、合わせて5つの学士号を取得した。
当時、日本は工業化が進み、技術者の育成が望まれていた。
1927年、有元は弱冠30歳で東京高等工商学校を創立。「社会に学び、社会に貢献する技術者の
育成」を建学の精神として掲げ、教育に力を注ぐ一方、新しい事業を次々と興した。
1937年、岡山県津山市長に就任。翌年、事故により41歳という若さで亡くなった。

東京高等工商学校



安全かつ効率的な 自動運転技術を実現する ハイパーデジタルツインの 可能性

新熊亮一教授は、デジタルツインと呼ばれる技術を用いた自動運転の研究に取り組む傍ら、2022年に「株式会社ハイパーデジタルツイン」というベンチャー企業を立ち上げた。「研究に従事するだけでなく、研究成果を自らの手で社会に実装したい」と語る新熊教授だが、そのモチベーションはどこから来るのだろうか。

【インフラ側から俯瞰的な情報をリアルタイムで車両に与える】

スマートシティの開発において期待される代表的な技術として、自動運転がある。従来の自動運転の考え方は、人を乗せるタクシーやバス、あるいは物を運搬するデリバリーロボットにセンサを搭載するというものだった。しかし、車載する以上は車両から見えない死角が生まれてしまい、その範囲で何か問題が起きた時に瞬時の判断が難しくなるという課題がある。これを解消すべく、より高性能なセンサを搭載しようとすると、今度は車両の価格が跳ね上がった。そこで、新熊教授の発想は、車両ではなくインフラがセンシングを行うというものだ。

「ここ」でいうインフラとは、我々が普段使っているWi-Fiやモバイルネットワークのような固定設備を指します。例えば、交差点のように多くの車と歩行者が行き交っている状態を車両目線で認識するのは困難です。そうではなく、インフラ側から鳥のような視点で、情報をリアルタイムに自動運転車両に与え、死角となる空間の車や人の動きを把握、先読みさせることで危険を回避し、事故の発生件数0を目指すのではないかと考えました。このようにリアルタイムでリスクを察知するシステムは、デジタルツインという技術によって構築されています」

デジタルツインとは、私たちがいる実空間と、バーチャルリアリティのようなコンピュータ上のデジタル空間を同期させる技術である。主に製造業における導入が進められており、例えば、工場の生産ラインをデジタル空間上に再

SIT Academic Column

工学部 /
社会情報ネットワークデザイン研究室
新熊 亮一 教授



PROFILE
2003年大阪大学博士(工学)学位を取得。京都大学助教・准教授(2003~2021年)、米国WINLAB客員研究員(2008~2009年)を経て、2021年から芝浦工業大学教授に就任。ネットワークとAIの融合領域を専門とし、電子情報通信学会やIEEE国際会議で論文賞を受賞。2022年からは株式会社ハイパーデジタルツイン取締役CTOも務め、国立研究開発法人科学技術開発機構(JST)や国立開発研究法人情報通信研究機構(NICT)の大型プロジェクトの成果の社会実装を行う。

現することでの工程で何が起っているかを可視化でき、不良品が生産された際などもその原因を把握できる。

「私たちが行う研究は、“ハイパーデジタルツイン”と呼んでいるのですが、何がハイパーかという点、まずリアルタイム性を非常に重視しています。デジタルツインを自動運転に用いる場合、実空間とデジタル空間とに数秒でも遅れがあってははいけません。また自動運転においては、実空間の情報を単純にデジタル空間に投影するだけでは不十分だと考えています。具体的には、これから起こる事象の予測や不可視な領域の可視化など、デジタル空間に興味づけをしていくことが必要とされています。そこが従来のデジタルツインとは違う、我々の研究の独自性であると自負しています」

データの重要度の目利きを自動化する

新熊教授の研究姿勢は一貫している。それは「見えないものをどうやってモデル化し、解釈可能にしていくか」であり、ハイパーデジタルツインという発想もその延長上にある。

「振り返ると、私は『データの重要度をどう定義するか』という点を長らく研究してきました。例えば、100Mbpsのデータを送りたいのに通信回線が50Mbpsしかない場合、データ容量の半分はいったん溜めて後送するか、捨てるしかありません。実際、インターネットやモバイルネットワークでもそういうことが起きていて、移動中の新幹線の車内などでダウンロード

自分の研究が世界に 寄与しているという実感を得る

新熊教授は、芝浦工業大学発の第1号認定ベンチャーである「株式会社ハイパーデジタルツイン」のCTOも2022年から務めている。起業に踏み切った理由は、自身が「学びや経験に対して、かなりオープンなスタンスだから」という。

「教育者である私は学生たちの人生に関わっていますし、関わりたいと思っていますが、自分が経験していないことを上手に伝えることはできません。そういう意味では『起業したことがないから起業する』という動機もあったかもしれません。また、やはりゼロから小さな会社をスタートするというのは学びに溢れています。例えば資金調達にしても、お金を出してく

れる方に対して、まだ完成していない技術の潜在的価値を伝えるには相応の説得力が求められます。もちろん、既存の組織に入った場合でもそうした説得や交渉が必要になる局面はあるでしょう。ただ、すでに走っている船



SIT Academic Column

ドやページの読み込み時間に時間がかかるのはそのためです。この時、重要なデータを優先して通信してもらえるとユーザーとしてはありがたいわけですが、その目利きをユーザーが行うのではなく、自動化できないかと考えていました」

このアイデアを後押ししたのが、近年の目覚ましいAI技術の進歩だ。ディープラーニングや生成AIといったワードが一般化し、AIによって推論や予測が立てられることも周知された。身近なところだと、ECサイトにおけるレコメンド機能もAIの推論技術が用いられている。

「私はそこで、AIの推論の精度ではなく判断基準に注目しました。AIは何に基づいて『あなたは次にこれを買おう』と考えているのか。その答えは、特徴重要度と呼ばれるものをAIが認識しているからであり、そこからAIによるデータの重要度の目利きという着想を得たんです。そして、AIの目利きがもっとも生きるのは、リアルタイム性が求められる領域ではないかと考えました。我々が研究している自動運転は、空間認識、データ取得、デジタルツインによる把握といった動作をインフラのセンサで一瞬に行わなければならないんです。そのため、まさに100Mbpsのうち50Mbpsしか通信できないような状況がいくらかでも起きるわけですが、そこでAIの目利きを使わない手はないという考えに至りました」

に乗り込んでそれをやるのと、これから自分で漕ぎ出すために行動するのでは大きな違いがあります。後者では自分自身がドライビングフォースにならなければならない、そうした経験ができるのはベンチャーならではのですね」

起業家の中には、研究者が否かは別として、自分のやりたいことを思いきりやるために会社を立ち上げる人も多くいるだろう。しかし、新熊教授の場合は「世界に寄与したい」というモチベーションが前提にあり、それは指導方針にも表れている。

「例えば、研究論文を海外の学会で発表し、世界中の研究者に読まれ、その中から私の研究に追随するような人が現れたとすれば、世界に寄与しているという実感が得られます。ただ、私はそこで終わってしまうのは物足りなく感じました。やはり自分の研究が社会に実装されてこそ、より大きな実感を得ることができます。そのためベンチャーという選択肢とも言えます。学生たちにもぜひそれを実感してもらいたいため、論文の執筆には力を入れて指導しています。当然、さらなる実感を得るために起業も視野に入れてくれれば嬉しいのですが、まずは自分の研究が社会に実装されることを想像してほしいです。その可能性は誰にでもあります」



創立以来10万人を超える
芝浦工業大学の卒業生。
現在も日本はもとより
世界各地で活躍しています。
エンジニアはもちろん、
さまざまな方面で活躍する
卒業生を紹介します。

卒業生の今

しばうら人



荒山莉穂さんはデザイン工学部で情報デザインを学び、卒業後に大手通信会社に入社。学生時代の夢でもあったコンシューマ向けアプリの企画開発に携わった。現在は都市デザインの研究開発部門でプロジェクトマネージャーを務めるなど、新たな挑戦を続ける荒山さんが、学生時代の学びの重要性を改めて振り返る。



PROFILE
荒山 莉穂さん
Riho Arayama
株式会社NTTドコモ
デザイン工学部 デザイン工学科
2017年卒業

プロジェクトマネージャーとして ユーザー起点のサービスを社会に提供したい

体験デザインを中心に学び、
グローバルPBLにも参加

子どもの頃から「ものづくりの仕事がしたい」と考えていました。大学選びの際に「デザイン工学」という学部が芝浦工大にあると知った時、将来の道が拓(ひら)けそうな予感がして、進学を決めました。

入学後はUI(ユーザーインターフェース)やUX(ユーザーエクスペリエンス)などの「体験デザイン」を中心に学びました。3年次からは梁元碩先生の感性インタラクティブデザイン研究室に所属。人が製品やサービスを使用する際に良い体験ができるよう、ユーザーと製品間の相互作用(インタラクション)を理解し、最適な設計やデザインを行う方法を研究しました。また、梁先生がアジア圏の大学とつながりが深いため、研究室ではアジアの大学を互いに訪問して交流するグローバルPBL(Project Based Learning)が盛んでした。PBLはアクティブラーニングを通して、「グローバル展開力」「問題解決能力」「コミュニケーション能力」「異文化理解力」の4つの能力を育成することを目的

として行われるのですが、教員と学生との間に満足度の差が生じるため、常に最適なPBLプロセスを目指して改善していく必要があります。私は韓国、シンガポール、タイの大学とのグローバルPBLに計4回参加しましたが、観光気分の学生が多く、現地学生との交流にも消極的になりがちで、「学生にもっと積極的に参加してもらうにはどうすればいいのか」と考えるようになりました。そこで学生に現地の社会・歴史・文化などに興味を持ってもらうため、レポートメモを作成して渡すなど、いろいろな工夫を重ね、その集大成を「グローバルPBLによる学生参加型授業の実践的考察」という卒業研究にまとめました。



グローバルPBLでのグループワークの様子

ゼロから企画し、 女子高生向けアプリを開発

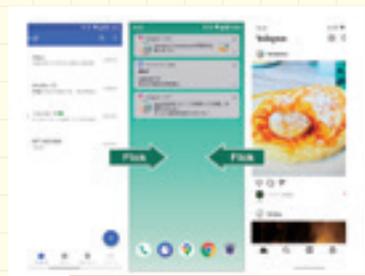
卒業後、株式会社NTTドコモに入社しました。ユーザー起点でサービスを考えるUXを学び、「コンシューマ向けサービスの企画がしたい」「学びを生かすならIT系だ」と考えるようになったからです。NTTドコモには常にカスタマーファーストの精神があり、お客様の意見を取り入れる風土があることにも共感しました。

入社後はアプリ企画の部署に配属され、念願のコンシューマ向けサービスの企画開発に携わることができました。中でも入社4年目に私がプロジェクトマネージャーを務め、初めてゼロから企画した女子高生向けアプリ



企画開発したアプリイメージ①

が印象に残っています。まず、若年層に向けて話題性のあつるエッジの効いたコンセプトのアプリを目指しました。そこでSNSへビュアー層である女子高生をメインターゲットに据え、「推し活がはかどるアプリ」というコンセプトを立案。ユーザーインタビューを実施してニーズを探り、プロトタイプを制作して概念実証を繰り返ししました。苦労したのは企画を通すための社内プレゼンです。このアプリのニーズを論理的に説明する必要があり、上の世代の方にもわかりやすいようにユーザーインタビューの情報を盛り込むなどしました。この時、グローバルPBLで培った論理的説明力が役に立ちました。もともと私は大学の生協学生委員として入学時オリエンテーションの説明員などを務めた経験もあり、人前で話すことに抵抗はないのですが、話したい情報を整理し、論理的に説明することが苦手でした。しかし、PBLで課題を解決し、成果物へと落とし込む作業を何度も繰り返したため、論理的説明力が培われたと感じています。最終的にアプリの市場へのリリースを達成。エッジの効いたコンセプトのた



企画開発したアプリイメージ②

大学の授業は 実社会で役立つものばかり

2024年春、アプリ開発以外にも経験しようと社内公募制度に応募しました。研究開発はゼロから新しいものを生み出す必要があり、ゴールも存在しません。所属部署には新入社員が多く、自由な発想で次々にアイ

アを提案するため、私はプロジェクトマネージャーとして新しい技術・サービスとユーザーをつなげる役割に努めています。

今、振り返ってみても、大学の授業は社会に出てから役立つものばかりでした。特に「プロダクトデザイン」「課題解決プロジェクト」「知的財産」などは、もう一度授業を受けたいぐらいです。実は2025年度下期より、会社勤務のかたわら芝浦工大で非常勤講師を務めます。担当するのは、かつて自分も受講していたコンテンツデザインの「プロジェクト演習」です。当時は「この授業は将来役に立つのだろうか?」と思っただけでしたが、社会に出

てからその必要性を身をもって体験できました。授業では学生に寄り添い、実社会で役立つ内容を伝えていきたいと考えています。



生協学生委員会新入生オリエンテーションの様子

ACTIVE STUDENTS!

活躍する芝浦工大の学生たち

学びを実践に——
「起業精神」を育む

芝浦工業大学ではアントレプレナーシップの育成にも力を入れています。その学びで顕著な成果を残したのが、安永圭吾さん、永田亮大郎さん、佐藤怜央さんです。2月(当時は学部4年)に挑んだ埼玉県主催のビジネスコンペ「CEOチャレンジングランプリ」で、優勝しました。

これらはシステム理工学部と大学院理工学研究科システム理工学専攻で展開している「システム工学」の手法を活用した成果です。安永さんは2024年度春学期に、大学院の授業「システム工学特別演習」に特別に参加しました。そこで取り組んだビジネスモデルを、秋学期からは永田さんと佐藤さんが加わり、「グロスイノベーションプロジェクト」の授業でさらに磨き上げました。

書体験を軸にしたSNSをベースにしたものでした。しかし、これを提案した10月の中間ピッチの結果は4位。「非常に悔しい結果。今のままでは勝てない」と感じた3人は、ロゴ特化型SNS「ロゴハウス」という全く違うビジネスアイデアをまとめました。

永田さんの「ロゴ特化型のアプリってどう?」という一言から、メンバーの好きな「ロゴデザイン」を落とし込んだ新しいビジネスアイデアです。アマチュアクリエイターの成長とキャリア形成を支援するサービスを考案しました。

「埼玉から世界」へ、続く挑戦

「CEOチャレンジングランプリ」優勝後は、全国のビジネスコンペ優勝者が集う「JBMCM2025」*に埼玉県代表として出場。3月の決勝ラウンドを通過し、4月には「英語ラウンド」に挑戦しました。「起業」という選択肢を魅力的に感じるようになったというリーダーの安永さん。システム工学の手法を学んで活用し、考案したこのビジネス



提案したサービスのモックアップ



起業 # ビジネスコンペ優勝

Morning Life

大学院理工学研究科 システム理工学専攻 1年

安永 圭吾さん 永田 亮大郎さん 佐藤 怜央さん

「起業」が魅力的に
感じるようになりました



新体制で「箱根駅伝」へ!!



©Getsuriku

駅伝部 # Wエース

システム理工学部 環境システム学科 4年

横尾 皓さん 内山 壽頼さん

芝浦工大では理系の高いレベルでの学業との両立が求められます。横尾・陸上に集中する生活も良いですが、将来役立つことを芝浦工大だから学べているので、この道を選んで良かったです。より高いレベルでの文武両道を目指したいと思います。

創立100周年事業として「箱根駅伝」出場を目指し、2018年から「駅伝プロジェクト」を開始しました。今年は監督・コーチも新体制となり、大学関係者だけでなく箱根駅伝ファンからの注目度も高まっています。駅伝部を代表してWエースの横尾さんと内山さんにお話しを伺いました。

Q いよいよ最終学年です。芝浦工大での3年間を振り返って

内山: 最初の箱根予選会でチーム2位を記録して「箱根駅伝」を意識しました。その後2年間、箱根駅伝への出場が叶わず、この1年に懸ける思いが強くなりました。

Q この1年の目標を教えてください

横尾: 陸上に集中する生活も良いですが、将来役立つことを芝浦工大だから学べているので、この道を選んで良かったです。より高いレベルでの文武両道を目指したいと思います。

Q 徳本一善新監督・山川達也コーチを迎えて新体制になりました

内山: 徳本監督は前任校を箱根駅伝に初出場させた方なので楽しみな気持ちがある反面、本音で言うと不安と緊張も多少はありますが、自分が監督の思いにどれだけ付いていけるかだと思っのでしっかり気持ちを作っていきます。

Q 新入生にも強いメンバーが揃いました

横尾: いち早く大学の環境に慣れてもらって箱根予選会での戦力になってくれるように自分たちもサポートしながら監督・コーチとともに育てていきたいです。

Q この1年の目標を教えてください

横尾: チームでは箱根駅伝に必ず出場すること。個人ではOBの橋本章央さん(2024年卒業)の記録に近づきたいです。また、箱根駅伝に出場して、区間一桁の順位で走ることが目標です。

内山: これまで箱根予選会で日本人の第1集団で勝負したことがな

モデルについて「本気で実現したいと考えています。今後もビジネスモデルの仮説検証とブラッシュアップを行い、開発を進めていきます。私たちの考えた『ロゴハウス』が、クリエイターの助けになるツールになれる未来を描けるよう、これからも頑張っていきます」と抱負を語ります。

*「Japan Business Model Competition 2025」世界最大のビジネスコンペ「JBMCM Global」公認の日本大会。優勝チームは、9月に開催される「Asia Business Model Challenge」(シンガポール)に日本代表として参加する。

いので、今年は力を付けて第1集団で勝負するレースをしてチームで箱根駅伝に出場して区間上位で戦いたいです。

Q 卒業後の目標を教えてください

横尾: 実業団の最高峰であるニューイヤ駅伝に出場して上位で戦うことが目標です。

内山: 大学では箱根に出ているチームを経験したので、実業団では競技を継続し、ニューイヤ駅伝に出ているチームで自分の力を試したい気持ちが強いです。

Q 応援して下さる方々へ

横尾: 主将として1年間チームを引っ張ります。チーム一丸となって箱根駅伝予選会に向けて頑張っています。日々の活躍への応援も励みになるのでよろしくお願いします。

Q 後輩に向けてのアドバイス

内山: 人生は大学で終わりではないので、将来を考えると学業と両立することが自分のためになると思うので自身の成長を思い描きながら頑張ってください。

芝浦工業大学

坂茂特別招聘教授が 日本芸術院会員に選出されました

2月10日、坂茂特別招聘教授が日本芸術院により決定された日本芸術院会員候補者に選出され、3月1日付で文部科学大臣から発令されました。

日本芸術院は、美術、文芸、音楽、演劇、舞踊など芸術各分野の優れた芸術家を優遇するために設けられた荣誉機関として設置され、会員は、芸術上の功績顕著な芸術家について、会員からなる部会の推薦(部会における選挙)と総会の承認によって選ばれ、文部科学大臣により任命されます。



提供：日本芸術院

● 推薦理由

坂茂氏は、きわめて今日的課題を作品に反映させている建築家の一人である。国内はもとより、国外でのプロジェクトも多く、平成26年にブリッツアー賞を受けた。周知のとおり災害地における仮設住宅、緊急避難所の設計にも尽力し、人間生活を助ける即効性の高い仕事は特筆すべきものである。また各地の暮らし、そして環境特性をふまえることによって、素材の選択、周辺景観との整合をはかり、建物と人々の関係性を深めている。こうした建築家としての取り組みは、現在から未来に向けての暮らしかたや人間の在りどころを示し、作品それぞれはこれを体現しているといえる。

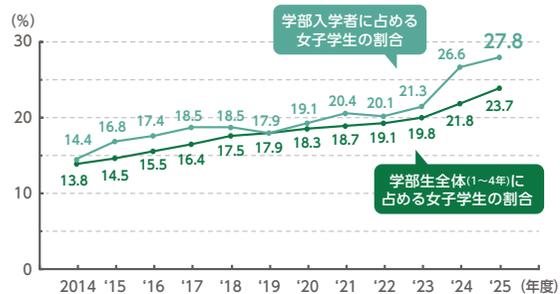
(出典：令和7年2月20日日本芸術院報道発表「令和6年度日本芸術院会員候補者の決定について」)

新入生の女子比率が27・8%に 昨年を1.2ポイント上回り、過去最高を更新

4月、572人の女子入学者(学部)を受け入れました。これは学部入学者全体(2057人)の27・8%を占め、過去最高を更新しました。これまで最高だった2024年度の26・6%(1866人中496人)を1.2ポイント上回っています。なお学部生全体(1〜4年)に占める女子学生の割合は23・7%になりました。

芝浦工業大学では、多様性を尊重し、イノベーションを生む大学を目指して、女性理工系人材の育成にも注力。2027年までに「女子学生の割合を30%以上」を目標としています。女子生徒を対象とした「理工系女子特別入学選抜」では、2025年度は90人を受け入れました。

山田純学長は「芝浦工業大学は、多様性が新たなイノベーションを生み出す原動力になるという考えのもと、ジェンダーギャップの解消に取り組んでいます。入学者の女



子比率が過去最高となったことは、理工系分野におけるジェンダーバランスの改善に向けた一歩であり、大変喜ばしく思います。本学は今後も女子生徒の進学を後押しし、未来のイノベーションを牽引(けん引)する人材を育成してまいります」とコメントしています。

「テクノプラザIV」が 『iFデザイン賞2025』を受賞しました

● 受賞コメント

最先端の機器を利用できる共通機器・ものづくりセンター「テクノプラザIV」(豊洲キャンパス)が『iFデザイン賞2025』を受賞しました。

● 受賞コメント

建築学部 山代悟教授

1953年にドイツで始まった『iFデザイン賞(International Design Award)』は、IDEA賞(アメリカ)、レッドドット・デザイン賞(ドイツ)と並び、工業製品などの「世界3大デザイン賞」の一つとされ、今回は世界66カ国から約1万1000点の応募がありました。「テクノプラザIV」の整備にあたっては、建築学部の山代悟教授とビルディングランドスケープが意匠設計を担当し、世界初のガラスつづら折り構造が採用されています。

「テクノプラザIV」は豊洲キャンパス教室棟一階のがらんとしたロビーだった場所に作り上げたファブラボです。多くの学生が朝早くから授業時間のあとまでこの場所を使っている姿を見かけると、設計者としてとてもうれしいです。

ガラスを構造体とした世界でも類のないもので、ジョイントに使っている木の塊が宙に浮いたように見えます。ここで作業している人の姿やさまざまな機材や材料などを、見慣れないガラスの構造体越しに眺めることができます。大学の中の場合がこのような賞を受けることができ、デザイナーとして、そして教育者として非常にうれしく思っています。



ガラスを構造体とした世界でも類のないもので、ジョイントに使っている木の塊が宙に浮いたように見えます。ここで作業している人の姿やさまざまな機材や材料などを、見慣れないガラスの構造体越しに眺めることができます。大学の中の場合がこのような賞を受けることができ、デザイナーとして、そして教育者として非常にうれしく思っています。

東京都人事委員会事務局が本学を訪問

2月17日、東京都人事委員会事務局の谷理恵子試験部長、伊藤建夫試験課長が、理事長の鈴木健夫を訪問されました。これは2024年度の東京都採用試験において、本学から多数の合格者を輩出したことに対して、お礼にいられたものです。本学からは理事(キャリアサポーター・就職担当)の吉池富士夫と、就職・キャリア支援部から部長の久保ひとみ、公務員担当の佐藤勝が同席しました。谷部長からお礼が述べられた後、和やかに懇談が行われました。



本学は、2024年度の東京都職員採用(選考)の技術職区分(建築、土木、機械、電気)に、33人の学生が合格しました。同区分の全合格者は338人で、本学の学生が9・8%を占める結果となりました。25年4月には本学から16人が都に入職予定で、過去3年の平均5人と比べて大幅に増加しました。



芝浦工業大学

有名企業の卒業生リクルーターをお招きして「就活フェア」を開催しました

2月4日、5日の2日間で、全学年を対象とした「就活フェア」を開催しました。DAY1にはオンラインで株式会社マイナビによる「就活準備振り返り講座」を実施。DAY2では、有名企業9社から卒業生リクルーターをお招きし、「卒業生によるパネルディスカッション」「選考特化型企業説明会・卒業生交流会」「卒業生との交歓会」の3部構成による対面イベントを実施しました。両日ともに例年の参加者数を大きく上回る200人を超える学生が参加し、就職活動本番へ向けて学生たちが意識を高める絶好の機会となりました。

ご参加いただいた企業一覧（五十音順）

- ・株式会社NTTドコモ
- ・株式会社大林組
- ・テルモ株式会社
- ・東海旅客鉄道株式会社
- ・日本電気株式会社
- ・日本航空株式会社
- ・本田技研工業株式会社
- ・三菱電機株式会社
- ・株式会社LIXIL

●卒業生によるパネルディスカッション
前半には事前に用意された質問にパネリストが回答し、後半ではオンライン投稿ツールを利用し



「就活活動の醍醐味、"就活"も楽しもう！」と、卒業生リクルーターが活躍の場を共有し、学生から寄せられた質問の中で特に注目が高かった質問に回答する、参加型の形式で実施されました。

事前質問では「学生時代に想像していた社会人像とのギャップ」「就職活動の際の"役作り"」「芝浦工業大学出身で良かったこと」「社会人になって役に立った大学での学び」などの多くの学生が気になるテーマに対して卒業生リクルーターがぎゅぐゅと語りました。

参加した学生からは「就職活動の漠然としたイメージが具体化されて不安が解消できた（学部1年）」「大学で学ぶべきこと（社会人になって役立つこと）が分かった（学部1年）」これから採用面接に臨むにあたって役作りをするべきか、エントリーシートの書き方などの道筋が見えた（学部3年）など、学年を問わず有意義な会であった様子が感じられました。

●選考特化型企業説明会・卒業生交流会
場所を教室に移して個別の企業説明会と交流会を実施。参加企業の概要や業務内容はもちろん、推薦応募のスケジュールや応募方法などの選考に関する具体的な説明がありました。後輩たちのために熱く語る卒業生リクルーターのお話を学生たちも真剣に聞き入り、説明会後に個別相談する姿も多く見られました。



●卒業生との交歓会
パネルディスカッションや企業説明会で聞ききれなかった話題について、卒業生リクルーターを囲んだ交歓会を実施しました。これまでの雰囲気とは打って変わり、お茶菓子を揃えながらの和やかな会に学生たちの緊張も緩んで多くの笑顔が見られました。



2025年度 入学者選抜志願者数報告

芝浦工業大学大学院 理工学研究科			
専攻	募集	志願者数	合格者数
電気電子情報工学専攻	200	246	239
材料工学専攻	50	58	56
応用化学専攻	40	42	40
機械工学専攻	140	159	156
システム理工学専攻	150	210	207
国際理工学専攻	10	20	20
社会基盤学専攻	40	28	28
建築学専攻	170	194	192
理工学研究科 修士課程 計	800	957	938

専攻	募集	志願者数	合格者数
地域環境システム専攻	15	16	16
機能制御システム専攻	18	14	13
理工学研究科 博士(後期)課程 計	33	30	29
大学院 合計	833	987	967

芝浦工業大学附属中学高等学校			
	募集	志願者数	合格者数
中学校	160	1,305	240
高等学校	172	370	240

芝浦工業大学柏中学高等学校			
	募集	志願者数	合格者数
中学校	180	2,403	583
高等学校	120	1,109	411

2025年度学士課程の一般入学者選抜においては全体として38,507人と、前年度(35,384人)に比べて108.8%となる志願者数を集めました。

共通テスト利用方式(前期)においては13,091人の志願者を集め、前年度比115.1%(+1,722人)と大きな増加をもたらしたことをはじめ、本学独自の試験問題を用いる前期日程(A/B)方式、全学統一日程(A/B)方式、後期日程方式の合計も前年比106.5%(+1,500人)と増加。2025年度入試からは本学独自の英語の問題に代え、大学入学共通テストや実用英語技能検定(英検)をはじめとした外部英語資格・検定試験の結果を全面的に用いることとしたことも、受験生にとっての利便性向上につながったと考えられます。

さらに次年度(2026年度)の大学入学共通テスト利用方式(前期/後期)においては、3教科4科目および6教科8科目型の2形態の選抜方式を採用し、より幅広い層の志願者が受けやすい選抜を実施する予定です。

芝浦工業大学 学部

一般入試(大学入学共通テスト利用方式(後期)除)			
工学部	募集	志願者数	合格者数
機械工学課程(基幹機械コース)	74	2,891	967
機械工学課程(先進機械コース)	74	2,604	796
物質化学課程(環境・物質工学コース)	67	1,533	655
物質化学課程(化学・生命工学コース)	67	2,142	817
電気電子工学課程(電気・ロボット工学コース)	67	1,905	742
電気電子工学課程(先端電子工学コース)	67	1,552	532
情報・通信工学課程(情報通信コース)	67	2,047	595
情報・通信工学課程(情報工学コース)	74	3,184	693
土木工学課程(都市・環境コース)	67	1,561	493
工学部 計	624	19,419	6,290

システム理工学部			
	募集	志願者数	合格者数
電子情報システム学科	74	2,244	510
機械制御システム学科	58	1,281	410
環境システム学科	58	1,083	346
生命科学科 生命科学コース	37	1,227	350
生命科学科 生命医学コース	37	1,051	262
数理科学科	48	1,554	585
システム理工学部 計	312	8,440	2,463

デザイン工学部			
	募集	志願者数	合格者数
デザイン工学科(社会情報システムコース)	37	921	218
デザイン工学科(UXコース)	37	1,199	254
デザイン工学科(プロダクトコース)	32	1,443	277
デザイン工学部 計	101	3,563	749

建築学部			
	募集	志願者数	合格者数
建築学科 APコース(先進的プロジェクトデザインコース)	19	731	106
建築学科 SAコース(空間・建築デザインコース)	68	2,975	413
建築学科 UAコース(都市・建築デザインコース)	68	2,696	429
建築学部 計	155	6,402	948

※募集のうち大学入学共通テスト利用方式(後期)については、学部単位での募集のため上記募集数には含まれない

一般入試(大学入学共通テスト利用方式(後期))

学部	募集	志願者数	合格者数
工学部 計	9	332	77
システム理工学部 計	6	161	54
デザイン工学部 計	4	88	25
建築学部 計	3	102	13
合計	22	683	169

※2020年度入試より導入した新方式。各学部全学科で募集。学部ごとに募集人数が決まっている。

大学	募集	志願者数	合格者数
合計	1,214	38,507	10,619

芝浦工業大学附属中学高等学校

芝浦工業大学附属中学高等学校で「SHIBaura探究DAY」が開催されました

2月22日、芝浦工業大学附属中学高等学校(以下、附属中高)で「SHIBaura探究DAY」が開催されました。

附属中高では、2021年度に新カリキュラムが導入され、「自立学習」を重点テーマとして時間割に「SD (Self Development Learning)」を取り入れるなど生徒の自律的課題発見力や思考力を育てています。その中で、中高一貫教育の目玉に位置付ける、「SHIBaura探究」では中学1年生から高校2年生までの5年間で段階的に探究力を養成し、高校での「SHIBaura工学探究」では自ら設定した社会課題に対して理工学的アプローチで解決策を考えて実際にプロトタイプを製作することを目標としています。

新カリキュラム対象の中学全生徒と一貫教育の高校1年生が参加し、生徒の保護者や学内外の教育関係者約60人を含めて盛大な盛り上がりを見せました。見学者からは、各学年の発表のレベルの高さや個人やチームで設定したテーマ自体の面白さ、またその発展性に対して生徒を賞賛する声が多数ありました。



第92回全国書画展覧会で「文部科学大臣賞」を受賞しました

第92回全国書画展覧会の団体・書・中学生の部において、芝浦工業大学附属中学校(以下、附属中)が全国の中学校から1校だけに贈られる文部科学大臣賞を受賞しました。附属中は毎年展覧会に出展しており、個人の部でも数多くの受賞実績があります。今回は中学生全員の書道の成果が総合的に評価されました。書写の授業では、まず「姿勢」の指導から始め、授業開始の号令とともに構えや筆記具の持ち方を意識させることで、生徒が書写学習への心構えを整えられるよう指導しています。また、書体の本質的な理解を促すことを重視し、文字の成り立ち、点画の連続性、筆脈の実線化など、書体の特徴を丁寧に解説することで、生徒たちが教科書の模倣ではなく、「なぜそのように書くのか」という根本的な問いと向き合えるようになりま



した。その上で、「教える視点で、書く時のポイントを考える」という活動をとり入れ、生徒が課題の要点を言葉で説明する機会を設けたことにより、生徒が自身の課題を主体的に発見し、改善する力が着実に育まれてつづいていきます。このような取り組みを通じ、現代社会における書き文字の意義を生徒とともに考察し、実践的な書写教育を目指しています。

芝浦工業大学柏中学高等学校

令和6年度「SSH生徒探究発表会」を開催しました

2月15日、「SSH生徒探究発表会」が開催され、高校1、2年生を中心に185グループ・約300人の生徒が研究成果を発表しました。会場には保護者や教育関係者、卒業生などが訪れ、生徒たちの発表に対しコメントを寄せました。松澤佑磨さん(高校2年生)は「自分にはなかった発想をもちょうことができて、研究を進展させる余地があると感じました。大学進学後の研究につながられればと思います」と意欲を見せました。本校は今年度より高校1年生全員が探究活動に取り組みしており、今後の規模拡大や研究内容の充実が期待されます。

また、発表会では、高大連携の環境として芝浦工業大学で先取り教育を受けた高校3年生10人も研究発表を行いました。彼らは、大学の教員や大学院生の指導のもと、研究

室で取り組んだ課題研究の成果を発表しました。原夏希さん(高校3年生)は「大学での研究がどのようなかを学ぶことができ、とても勉強になりました。高校よりも学びの幅が広がる楽しさを感じる一方で、その大変さも実感し、どれくらい頑張っていかなければいけないのかを知ることができました」と語り、大学進学後の学びを強くイメージしている様子でした。中根正義校長は、この取り組みに意義を感じており、「将来的には医療系や文系分野について他大学との連携も進めていければと考えたいです」と展望を述べました。

※学年は取材当時のものです。



人工芝グラウンドが新しく生まれ変わりました

3月、人工芝グラウンドの改修が完了しました。今回グラウンドに採用したのは株式会社住友ゴム産業の「Hybrid-TurfEX」。芝ヤーンが業界屈指の厚み400mmで耐久性が高く、芝立ちが良いこの人工芝は、プロの練習グラウンドでも使用されています。グラウンド全面174か所からのミスト散水が引き続き可能な上、表層に温度抑制効果のある特殊樹脂チップres.Ti3を採用し、夏場の暑さ対策にも配慮しました。また、純日本製の人工芝を採用することで、海外製品と比較してCO₂排出量の抑制にも貢献しています。

今回の改修により、従来のグラウンドで見られたひっかかりや細かいゴムチップの付着が軽減されるため、より快適な環境でスポーツに取り組めることが期待されます。



安全祈願が行われました